

岡山県立高等技術専門校再編整備計画

平成18年8月

目 次

第 1	職業能力開発を取り巻く現状	
1	求められる職業能力の変化	1
2	企業主導での職業能力開発の低下	1
3	雇用のミスマッチの拡大	1
4	フリーター、ニートの増加	1
5	技術・技能継承の困難化	2
第 2	県立高等技術専門校の課題と施策の推進方向	
1	労働需給に対応した多様な職業訓練の推進	2
2	地域産業を支える若年技能者の養成	2
3	民間等との連携による総合的な職業訓練	2
4	障害者への職業訓練	2
第 3	県立高等技術専門校の再編整備	
1	再編整備の基本的考え方	5
2	訓練科の見直し	6
3	運営体制の整備	7
4	委託訓練の実施	9
5	在職者訓練の充実	9

第 1 職業能力開発を取り巻く現状

1 求められる職業能力の変化

技術革新は、労働生産性の向上等、経済発展の原動力となっている。

製造業等あらゆる産業において、高度な通信情報システムを活用した企業経営や新たな事業展開を図る動きが見られる。このため、労働者に求められる職業能力も、これまでの特定業務の習熟から、多様な業務へ柔軟に対応できる多様化・高度化した職業能力へと変化してきている。

2 企業主導での職業能力開発の低下

労働者の職業能力開発は、終身雇用を前提に比較的安定した雇用の保障の中、企業が主体となっていて行われてきたが、厳しい経済情勢の中で、組織のフラット化・効率化等により、その役割が果たせなくなってきた傾向にある。

3 雇用のミスマッチの拡大

本県の雇用情勢は、有効求人倍率が平成 16 年 10 月以降 1.1 倍を超えており、改善が進んでいる。しかし、平成 17 年の完全失業率は、3.9%と全国 4.4%に比し、低いものの、ミスマッチによる若年者の失業率は高い状況になっている。

これらの要因としては、求職者と求人企業の間で、職業能力、職業経験、賃金、年齢などの条件が一致しない雇用のミスマッチがあげられる。

特に、技術革新や産業構造の変化に伴う、職業能力等に起因する雇用のミスマッチの拡大が懸念されており、求人企業に対する求職者の能力要件のミスマッチの解消が喫緊の課題となっている。

4 フリーター、ニートの増加

若者の職業意識の変化や人材ニーズの変化等を背景としたフリーターの増加や、ニートと呼ばれる若年無業者の存在が社会的課題となっている。

このような状況が続けば、若年者の職業能力が蓄積されない

ばかりか、ひいては、我が国の経済基盤にも重大な影響を与えることが懸念されている。

5 技術・技能の継承の困難化

若者のものづくり離れや、団塊の世代が大量に退職するいわゆる2007年問題等により、技術・技能の継承への対応が危惧されている。

第2 県立高等技術専門校の課題と施策の推進方向

1 労働需給に対応した多様な職業訓練の推進

産業構造の変化に対応して雇用の安定・拡大を図るためには、企業等が必要とする技能を持った労働者を育成することが必要であり、時代の労働需給に対応した多様な職業訓練を実施する。

2 地域産業を支える若年技能者の養成

団塊の世代の大量退職、若年者のものづくり離れにより、地域産業を支える技術を担う人材不足が懸念されていることから、職業に直結する資格・技能を有する若年技能者の養成を主体とした訓練を実施する。

3 民間等との連携による総合的な職業訓練

企業ニーズ、求職者ニーズを踏まえた多様な職業能力開発の機会を提供する必要があるが、県立高等技術専門校だけですべてに対応することは非効率的である。

一方、雇用のセーフティネットとしての多様な職業能力開発や在職者のスキルアップを図る在職者訓練の充実を図る必要がある。

そのため、公共職業訓練機関や各種専修学校等と連携して総合的な職業訓練を実施する。

4 障害者への職業訓練

障害者については、雇用の安定・拡大を図るため、職業能力

開発が重要であり、また、ノーマライゼーションの推進の観点から、県立高等技術専門校における障害者の受入を促進する必要がある。

本県には、国立吉備高原障害者職業能力開発校があり、障害者対象訓練を実施していることから、当該施設と役割分担しながら、施設内訓練のほか、企業、社会福祉法人、特定非営利活動法人等の民間活力を活用した委託訓練の実施等により、障害者の態様に応じた多様な職業訓練を推進する。

(参考)

県立高等技術専門校における在職者訓練の現状

技術の高度化や専門化、ISO導入企業の増加等による各種資格の取得等の技術力向上が企業、在職者から求められており、在職者の有する知識・技能の程度に応じて、より高度な技能や資格を取得し、能力向上が図られるよう、企業等からの希望に応じて、以下の訓練を実施している。

(平成18年度)

校名	専攻科目	定員
岡山校	第一種電気工事士・学科	80名
	第一種電気工事士・実技	30名
	第二種電気工事士・実技	30名
	建築配管作業1級・学科	20名
	建築配管作業1級・実技	20名
	建築配管作業2級・学科	20名
	建築配管作業2級・実技	20名
	電設CAD基本操作	20名
	介護福祉士・基礎実技	30名
	介護福祉士・応用実技	30名
倉敷校	アーク溶接(基本)	15名
	アーク溶接(特別)	15名
	婦人子供注文服製作作業	10名
	大工工事作業	12名
	左官施工作業	10名
	建築塗装	80名
	鋼橋塗装	60名
津山校	第一種電気工事士・学科	20名
	第一種電気工事士・実技(2コース)	40名
	第二種電気工事士・実技	20名
	木工作業(2コース)	40名
	介護福祉士・実技、学科	20名
美作校	仕事の教え方	10名
	改善の仕方	10名
	人の扱い方	10名
計	27コース	672名

第3 県立高等技術専門校の再編整備

1 再編整備の基本的考え方

県立高等技術専門校では、産業基盤を支えるものづくりを担う若年技能労働者の養成をはじめ、離転職者の職業能力開発、さらには在職労働者の能力向上などに取り組み、労働者の職業生涯の全期間にわたる職業能力開発の促進を行っている。

近年、産業の構造転換や技術革新の進展、労働者の就業意識・就業形態の多様化等に伴う労働移動の増加、職業能力のミスマッチの拡大等、職業能力開発を取り巻く環境が著しく変化している中で、労働者に対しては、特定業務に習熟した能力だけでなく、幅広い業務に対応できるより多様で高度な能力開発や求職者と求人企業を確実に結びつけていく実効性のある職業能力開発が求められてきている。

こうした多様化する企業の人材ニーズや若者、離転職者、高齢者等の様々な訓練ニーズに的確に対応する職業能力開発を実施し、雇用の安定を図るためには、県立高等技術専門校だけでなく、雇用・能力開発機構立の施設や多様な教育訓練資源を有する民間教育訓練機関等とが役割分担と連携を図り、社会全体として職業能力開発の推進体制を整えていくことが重要となっている。

また、平成15年度に第3次岡山県行財政改革大綱で、効率的・効果的な校運営の観点から県立高等技術専門校の統合を検討すべきこととされた。

こうしたことから県では、企業の人材ニーズに対応した機動的で多様な職業能力開発の機会を、雇用・能力開発機構立の施設や民間教育訓練機関等との役割分担と連携しながら効率的かつ効果的に確保し提供するため、県立高等技術専門校で実施する訓練科を見直し、県立高等技術専門校の機能集約を図る。

2 訓練科の見直し

県立高等技術専門校が施設内で直接実施する訓練科の見直しにあたっては、これまで各高等技術専門校が果たしてきた役割に配慮しつつ、その機能がより効率的、効果的に発揮できるように努めることとし、訓練ニーズはあるが、民間等で教育訓練が実施されていない、又は、多額の設備投資が必要である等により、今後も民間等で実施が期待しがたい分野に重点化するとともに、若年技能者の人材養成を主体とする養成訓練を中心に実施し、企業と連携して企業実習を取り入れたデュアルシステムによる訓練の導入など、若年者に対しての職業訓練の充実に努める。

離転職者への再就職訓練については、雇用・能力開発機構立の職業能力開発促進センターが主に実施していることから、地域性を考慮しながら雇用・能力開発機構立の施設で実施されていない分野の訓練に特化する等、役割分担する。

また、地域企業との連携をより一層密にし、求められる人材の育成や、企業のOJT機能を活用した共同訓練を行うなど、企業とのネットワークの構築に努める。

以上のことを受けて、具体的には、以下の内容とする。

(1) 多能工、高度化に対応

今後のものづくり分野を担う高度で多様な技術を有する人材を養成するため、機械科、溶接科を高卒以上の若年者対象訓練科にするとともに、機械科、システム設備科を精密機械科、建築設備科の2年制訓練科に再編する。

(2) 訓練科の統合

効率的な訓練を実施するため、複数校で実施している電気設備科、建築科、左官・ブロック建築科(左官タイル科)、木工科(木工第一科)、庭園管理科(造園科)、福祉ヘルパー科を統合する。

また、定員については、入校状況、関連職種への就職状況等を勘案して見直す。

(3) 求人ニーズに対応した訓練内容へ見直し

アパレル技術科について、縫製主体の訓練から、求人ニーズに対応した生地から、パターン、CAD、製作等の一連の知識・技能や商品企画、開発、販売等の基礎知識を付与する訓練内容に見直す。

(4) 離転職者対象訓練の新設

県北に、地域性を考慮して、離転職者を対象とした訓練科として、外構工事等を行うエクステリア科を新設する。

(5) 障害者の能力を開発する訓練

障害者訓練については、求人ニーズ等を勘案して見直しを行う。

身体障害者訓練である表具科を事務系訓練科であるオフィス事務科へ、また、知的障害者訓練である木工第二科を木工を基本訓練とした木工実務科へ、そして、金属加工科、縫製科を統合し、販売店のバックヤード作業等の訓練を行う販売流通科へ、それぞれに見直す。

(6) 継続する訓練科

塗装科、自動車工学科、自動車車体整備科については、関連職種の人材ニーズを踏まえて、また、OA事務科については、地域性を考慮して継続する。

(7) 廃止する訓練

雇用・能力開発機構立の施設や民間教育訓練機関等との役割分担を踏まえ情報ビジネス科、プログラム開発科、事務トレース科を廃止する。

各分野別施設内訓練科再編内容・・・別紙1のとおり

3 運営体制の整備

(1) 校の機能集約

産業の構造転換や技術革新の進展、労働者の就業意識・就業形態の多様化等に伴う労働移動の増加、職業能力のミスマ

ツチの拡大といった社会経済情勢の変化を踏まえ、雇用・能力開発機構立の施設や多様な教育訓練資源を有する民間教育訓練機関と役割分担と連携を行い、社会全体として効率的・効果的に職業能力開発の機会を確保・提供していくため、県立高等技術専門校を、現在の4校体制から南北2校1分校体制に整備する。

高等技術専門校の再編整備にあたり、倉敷高等技術専門校の位置に南部高等技術専門校(仮称)を、津山高等技術専門校の位置に北部高等技術専門校(仮称)を設置する。また、美作高等技術専門校を北部高等技術専門校美作分校(仮称)とする。

平成19年度に施設・設備整備を行い、平成20年度の高等技術専門校の再編整備を目指す。

平成18年4月		
岡山校	6科	125人
倉敷校	10科	220人
津山校	8科	190人
美作校	4科	90人
	28科	625人

平成20年4月		
南部校(仮称)	9科	200人
北部校(仮称)	9科	240人
(うち美作分校(仮称)3科)		80人
	18科	440人

県立高等技術専門校別再編内容・・・別紙2のとおり

(2) 指導員の資質向上等

多様化する企業の人材ニーズ、職業訓練受講ニーズに的確に対応する職業能力開発を実施するためには、職業訓練指導員の役割はさらに重要になってくる。そのため、職業訓練指導員を、職業能力開発総合大学校等へ派遣して資質向上を図る。

また、企業の訓練ニーズを的確に捉えた訓練企画業務や就職支援業務を強化するとともに、企業との連携を図り、訓練生の就職支援に努める。

4 委託訓練の実施

民間教育訓練機関等を活用した委託訓練については、その時々
のニーズにマッチした訓練を実施する。

5 在職者訓練の充実

企業の職業内容の多様化等に伴う職業能力開発ニーズに対応
するため、高等技術専門校の施設・設備やノウハウの蓄積を生
かした民間支援機能の充実を図る。

各分野別施設内訓練科再編内容

分野	平成18年度(現行訓練科)					訓練科の見直しの方向	新たな訓練科の内容						
	科名	期間	科数	定員	対象者		科名	期間	科数	定員	対象者(想定)	仕上がり像等	
工業分野	機械系	機械科(倉敷校)	1年	1	20	短期課程 制約なし	再編(2年制) 技能の熟練・高度化 技能の実践力の向上 多能工	精密機械科(南部校)	2年	1	10×2	普通課程 高卒以上30才以下	1年次に、基礎的な機械加工についての学科、汎用工作機械を中心とした技能を習得させ、2年次にNC工作機械及びCADを中心とした訓練を行うとともに、機械加工の根幹である金型、切削などの分野について訓練を実施し、将来高度熟練技能者となる素地を付与する。また、訓練期間中に効果的な企業実習を取り入れ実践的な技能の向上を図る。
	金属加工系	溶接科(倉敷校)	1年	1	20	短期課程 制約なし	再編 技能の熟練・高度化 技能の実践力の向上 多能工	溶接科(南部校)	1年	1	20	普通課程 高卒以上30才以下	溶接に関する基礎的な知識・技能を広く習得させる。JIS専門級の取得に向けて溶接実技訓練を実施するとともに、溶接に係るCAD操作等の技能も併せて訓練することにより、将来高度熟練技能者となる素地を付与する。
		金属加工科(美作校)	1年	1	10	短期課程 知的障害者	再編 実践力向上	販売流通科(北部校)	1年	1	10	短期課程 知的障害者	小売店等における商品管理、販売業務、倉庫などでの出荷作業等の基礎的な職業技能の習得と職場(就労)環境の変化に順応できる適応性を養う訓練(SST訓練)等の施設内の訓練を実施するとともに、企業での職場実習を行い、緩やかに職業的な自立をさせる。
		自動車車体整備科(美作校)	1年	1	30	普通課程 高卒以上で30才以下	継続	自動車車体整備科(北部校)	1年	1	30	普通課程 高卒以上30才以下	自動車板金塗装を主体に、プレス・各種溶接機等を用いてボディー及び車体部品の修理・塗装など自動車車体整備ができる人材の育成を行う。
	自動車系	自動車工学科(美作校)	2年	1	20×2	普通課程 高卒以上で30才以下	継続	自動車工学科(北部校)	2年	1	20×2	普通課程 高卒以上30才以下	自動車整備士として業務に必要な多種類の技能・資格を持ち、就職先事業所のフロントにおける顧客折衝能力を兼ね備えた人材の育成を行う。
	木材加工系	木工第一科(岡山校)	1年	2	15	短期課程 制約なし	継続(統合) 2科 1科	木工科(北部校)	1年	1	20	短期課程 制約なし(中卒以上)	木製家具、建具製作技能者となる人材の育成を行う。 手工具を基本として、古来の伝統的な技術・技能を付与し、尚かつ現代に即応できる技能者を育成する。
		木工科(津山校)	1年		20								
		木工第二科(岡山校)	1年	1	10	短期課程 知的障害者	継続 実践力向上	木工実務科(南部校)	1年	1	10	短期課程 知的障害者	木材加工を主体とした訓練を通して、実社会における就労態度と規則正しい生活習慣を体得させ、訓練生個々の適正に合わせて企業実習を行い、職業人としての自覚を得させる。 (木工を基本訓練とし、販売店バックヤード作業等(梱包、配送作業等)の訓練も実施する。)
		表具科(倉敷校)	6月	1	10	短期課程 身体障害者	事務系訓練へ再編 求人ニーズに対応	オフィス事務科(南部校)	6月	1	10×2	短期課程 身体障害者	求人ニーズがあり、就職に結びつきやすい訓練科に再編し、商業簿記、OA機器、CADの知識・技能を習得した人材の育成を行う。
	アパレル系	アパレル技術科(倉敷校)	6月	1	20×2	短期課程 離転職者	再編(新設)	アパレルビジネス科(南部校)	6月	1	20×2	短期課程 離転職者	一連の製造技術、デザイン、パターン、CAD、生産管理、販売能力等についての知識と技術を習得させ、アパレル製品に関する総合的な企画力を有する人材を育成する。
縫製科(美作校)		1年	1	10	短期課程 知的障害者	再編(再掲) 実践力向上	販売流通科(北部校)(再掲)						
電力系	電気設備科(岡山校) (津山校)	1年	2	20	普通課程 高卒以上で30才以下	継続(統合) 多能工 高度化 2科 1科	電気設備科(北部校)	1年	1	20	普通課程 高卒以上30才以下	一般用・自家用電気工作物の電灯、照明設備並びに動力設備の配線設計、自動制御、積算、配線工事及び検査などを主体に訓練を行い、消防設備、放送設備、電気通信設備等の施工に関する幅広い知識を持った中核技能者となる素地を付与する。	
		1年		20	短期課程 制約なし								
設備施工系	システム設備科(岡山校)	1年	1	20	普通課程 高卒以上で30才以下	再編(2年制) 多能工 高度化	建築設備科(南部校)	2年	1	20×2	普通課程 高卒以上30才以下	配管施工に係る専門的な知識・技能の習得に加え、建築設備の自動制御技術や工事の施工管理技術並びにCADシステムによる設計を学とともに、公的資格を習得し、幅広い分野のニーズに対応できる人材を育成する。	
塗装系	塗装科(倉敷校)	1年	1	20	短期課程 制約なし	継続	塗装科(南部校)	1年	1	20	短期課程 制約なし(中卒以上)	金属(自動車補修を含む)、建築(内外装、塗装リフォーム)及び木工(家具)塗装など、各種塗装に対応できるスペシャリストを育成する。	
建設系	建築科(倉敷校)	1年	2	20	短期課程 制約なし	継続(統合) 2科 1科	木造建築科(北部校)	1年	1	20	普通課程 高卒以上30才以下	木造建築(在来軸組構法)における専門学科と併せて器具・機械等の操作法を習得し、企業実習を含む工作実習を行い実践的な技能者を育成する。	
	(津山校)	1年		20									
	左官・ブロック建築科(倉敷校)	1年	2	20	短期課程 制約なし	継続(統合) 2科 1科	総合左官科(南部校)	1年	1	20	短期課程 制約なし(中卒以上)	左官、タイル、ブロック用機械及び器具の取扱いができるとともに、土物壁、セメントモルタル壁、石膏プラスター壁、タイル張り、ブロック組積、瓦葺き、エクステリア関連作業、湿式工法(壁、床)等の施工ができ、珪藻土、こまい等環境に配慮した左官施工技能者を育成する。	
園芸サービス系	庭園管理科(倉敷校)	1年	2	10	短期課程：離転職者	再編(統合) 多能工 2科 1科	造園施工管理科(南部校)	1年	1	10	短期課程 制約なし(中卒以上)	小規模庭園や公共造園の施工・管理作業ができ、小型建設機械等業界で必要となる資格、知識、技能を習得した人材の育成を行う。	
	造園科(津山校)	6月		10	短期課程：離転職者								
社会サービス分野	介護系	福祉ヘルパー科(岡山校)	6月	2	20×2	継続(統合) 2科 1科	福祉ヘルパー科(北部校)	6月	1	20×2	短期課程 離転職者	福祉施設・介護保険施設の介護職員及び訪問介護員に必要な生活援助を含む介護・社会福祉援助の知識・技能を持った人材の育成を行う。	
		(津山校)	6月		20×2								
情報技術事務分野	情報処理系	プログラム開発科(倉敷校)	1年	1	20	普通課程 高卒以上で30才以下	廃止	同様の訓練を民間教育訓練機関等で実施しているため、役割分担により廃止する。					
	オフィスビジネス系	情報ビジネス科(岡山校)	1年	2	20	普通課程 高卒以上で30才以下	廃止	同様の訓練を民間教育訓練機関等で実施しているため、役割分担により廃止する。					
		(津山校)	1年		20								
		OA事務科(津山校)	6月	1	20×2	短期課程 離転職者	継続 地域性に配慮	OA事務科(北部校)	6月	1	20×2	短期課程 離転職者	企業での取引の記帳から簡単な決算に至る一連の事務処理ができ、ワープロ、表計算ソフトはもとより、ホームページの作成、データベース、パワーポイント、CAD等の各種アプリケーションソフトによる処理ができる人材の育成を行う。
	事務トレース科(倉敷校)	6月	1	20×2	〃	廃止	同様の訓練を機構立校、民間教育訓練機関等で実施しているため廃止する。						
計	入校定員				505		入校定員			18	310		
	入校延定員			28	605		入校延定員				390		
	年間在校定員				625		年間在校定員				440		

県立高等技術専門校別再編内容

校名	平成18年度					平成20年度						
	課程	訓練科名	期間	対象者	定員	課程	訓練科名	期間	対象者	定員	備考	
岡山	普通	システム設備科	1年	高卒	20						0	2年制にし南部校へ配置 建築設備科に再編
	普通	電気設備科	1年		20						0	津山校と統合し北部校へ配置
	普通	情報ビジネス科	1年		20						0	廃止
	短期	木工第一科	1年	中卒 離転職	15						0	津山校と統合し北部校へ配置
	短期	木工第二科	1年	知的 障害者	10						0	南部校へ配置
	短期	福祉ヘルパー科	6か月	離転職	20×2						0	津山校と統合し北部校へ配置
小計	6科				125	0科					0	
倉敷 (南部校)	普通	プログラム開発科	1年	高卒	20						0	廃止
	短期	溶接科	1年	中卒 離転職	20	普通	溶接科	1年	高卒	20	高卒対象訓練に再編して南部校へ配置	
	短期	機械科	1年		20	普通	精密機械科	2年		10×2	2年制にし南部校へ配置 精密機械科へ再編	
					20	普通	建築設備科	2年		20×2	システム設備科(岡山校)を2年制の 建築設備科に再編し南部校へ配置	
	短期	建築科	1年		20						0	津山校と統合し北部校へ配置
	短期	左官・ブロック建築科	1年	中卒 離転職	20	短期	総合左官科	1年	中卒	20	津山校と統合し南部校へ配置	
	短期	塗装科	1年		20	短期	塗装科	1年		20	現行のまま	
	短期	庭園管理科	1年	離転職	10	短期	造園施工管理科	1年	離転職	10	津山校と統合し南部校へ配置	
	短期	アパレル技術科	6か月		20×2	短期	アパレルビジネス科	6か月		20×2	訓練内容を変更	
	短期	事務トレース科	6か月		20×2						0	廃止
	短期	表具科	6か月	身体 障害者	10	短期	オフィス事務科	6か月	身体 障害者	10×2	事務系訓練科へ再編	
					短期	木工実務科	1年	知的 障害者	10	木工第二科(岡山校)を木工実務 科に再編し南部校へ配置		
小計	10科				220	9科					200	
津山 (北部校)	普通	情報ビジネス科	1年	高卒	20						0	廃止
	短期	電気設備科	1年	中卒	20	普通	電気設備科	1年	高卒	20	岡山校と統合し北部校へ配置	
	短期	建築科	1年		20	普通	木造建築科	1年		20	倉敷校と統合し北部校へ配置	
	短期	木工科	1年	離転職	20	短期	木工科	1年	中卒 離転職	20	岡山校と統合し北部校へ配置	
	短期	左官タイル科	1年		20						0	倉敷校と統合し南部校へ配置
						短期	エクステリア科	6か月		10×2	新設	
	短期	OA事務科	6か月	離転職	20×2	短期	OA事務科	6か月	離転職	20×2	現行のまま	
	短期	福祉ヘルパー科	6か月		20×2	短期	福祉ヘルパー科	6か月		20×2	岡山校と統合し北部校へ配置	
短期	造園科	6か月	10							0	倉敷校と統合し南部校へ配置	
小計	8科				190	6科					160	
美作 (北部校分校)	普通	自動車工学科	2年	高卒	20×2	普通	自動車工学科	2年	高卒	20×2	現行のまま	
	普通	自動車車体整備科	1年		30	普通	自動車車体整備科	1年		30	現行のまま	
	短期	金属加工科	1年	知的 障害者	10	短期	販売流通科	1年	知的 障害者	10	金属加工科と縫製科を統合して 販売流通科へ再編	
	短期	縫製科	1年	10								
小計	4科				90	3科					80	
計	28科				625	18科					440	